

# Anatomic characterization of the suprascapular artery with special references to the origin and course

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 三郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003680">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003680</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2873 号

Anatomic characterization of the suprascapular artery with special references to the origin and course

肩甲上動脈の解剖学的特徴、特にその起始と走行について

森 三郎（もり さぶろう）

博士（医学）

#### 論文内容の要旨

肩甲上動脈は鎖骨下動脈系の主要な枝の一つで、肩甲骨の背部筋（棘上筋と棘下筋）に分布する。他の頸部の動脈枝と同様に、肩甲上動脈は解剖学的変異に富んだ動脈である。本研究では、肩甲上動脈の変異を含む解剖学的特徴を明らかにすることを目的とし、ホルマリン固定遺体 35 体のうち、66 側の頸部において、肩甲上動脈の起始と走行を調査した。肩甲上動脈には 6 つの型が確認できた。1 型は甲状頸動脈から起始しており、最も多く見られ、標準形と言える（46 側/全 66 側中、69.7%）。2 型は内胸動脈の近位部から起始し（2/66, 3.0%）、3 型は鎖骨下動脈第 2 部から直接起始していた（8/66, 12.1%）。1~3 型の肩甲上動脈は上肩甲横靭帯の上方を通過して棘上窩に達していた。さらに、4 型は鎖骨下動脈第 3 部から直接起始し（7/66, 10.6%）、5 型と 6 型は浅胸動脈（2/66, 3.0%）と浅肩甲下動脈（1/66, 1.5%）からそれぞれ起始していた。4~6 型の肩甲上動脈は上肩甲横靭帯の下方（つまり肩甲切痕）を肩甲上神経とともにを通過して棘上窩に達していた。鎖骨下動脈の遠位部と腋窩動脈系は腕神経叢とともに腕神経叢鞘（brachial sheath）と呼ばれる筋膜に包まれていた。肩甲上動脈の起始点が腕神経叢鞘で囲まれる空間の外にある場合には（つまり、1~3 型では）、肩甲上動脈は上肩甲横靭帯の上方を通過していた。一方、肩甲上動脈の起始点が腕神経叢鞘で囲まれる空間内にある場合には（つまり、4~6 型では）、肩甲上動脈は上肩甲横靭帯の下方（肩甲切痕）を通過していた。このことから、腕神経叢鞘が肩甲上動脈の起始と通過点（上肩甲横靭帯）に見られた明確な解剖学的な対応関係を規定している可能性が示唆された。